



少年の寛大さが動かした

『神の愛の奇跡』

いつも感動を与えて下さる皆様へ  
DBKを通して、根気よさと継続性を持つて、献身的なご支援とご協力で、苦しい状況にいる多くの人々を支えてくださっている皆様を考えるだけで本当に感動します。

感謝の言葉、手が震えながら書かれた感謝の手紙、涙の混じった微笑をもって感謝の意を表す人々は決して少なくはありません。聞く耳と受け止める心は私なのですが…

しかし通過駅を通り電車のように、本当の終点、本当の目的地であるお一人ひとりの心まで届くように、今回のDBKだよりも作り上げて送りたいのです。皆様からの援助によって助かっている人々の心からの感謝は決して私に止まることがあつてはいけないと思っています。この人々に代わって皆様に感謝いたします。

ヨハネの福音書（6章）には読む価値がある箇所、驚かせるエピソー

ドが多くあります。

多くの人は夢中になつてイエスについていく場面。時間が遅くなり、食べるものがなく、困りそうだつた時のことです。誰にも食べ物がないということで弟子たちにもパンの不安が広がつた。キリスト様の奇跡を思う人は一人もいなかつた。

似たことはDBKを支える皆様にもあると思います。あり溢れることがないにしても、人のニーズに目を向けさせる神様の愛と力を合わせて、皆様も日々奇跡を行なつています。「死ぬことになっている」と世界の統計や国々の指導者が言うが、神様の愛に一致できる皆様の愛情は大きな奇跡を起こしています。私には、皆様の行なつてていることは奇跡にしか思えません。



人以上の人々にそれを分けたのです。「奇跡だ！」という叫びが広がる。少年の寛大さと神様の限界のない愛が奇跡を起こしたのです。そして結果として皆が助かつた！

やつぱり、奇跡がある証拠です。皆様の人生を生かしているイエスの心を持って、これからも奇跡を起こし続けてください。

皆様の寛大さに負けないくらいの感謝を持って、神様の祝福をお贈りいたします。

（代表者 プッポ・オランド）

しかし、落ち着きを守る少年がいたのです。彼にはパン五個と魚二匹の弁当があつた。自分は大丈夫だ！そう思つていると「そのパンと魚をくださいますか」とイエスに頼まれる。それしかないのでその少年は疑わずに寛大に差し上げた。この少年の寛大さを生かして、イエスは五千

# 援助報告

マダガスカル・Madagascar

代表者  
ップポ・オランド

初めてこの国に援助金を送ることになりました。

世界の貧しい国の中でも最も貧しい国と言われて、マダガスカルに援助として百万円を贈るに当たっては、国際会議でマダガスカルの担当者ともう一人の代表者と会ってずいぶん話し合いを行い、十分な納得が得られました。

1. 若い女性と未婚の母、それに独り身になり子供を抱える母親の救出

送金する地域において、原因がいろいろあって誰にも世話をされず、誰にも守られていな

い若い女性の数は少なくありません。皆様にもすぐ理解いただけるように、このような状況にいる女性たちは悪い目的に利用されやすいので、彼女たちが何かの職を持てるような技術指導や、独り身であつても子供を世



2. 路上にいて、危険にさらされている子供たち

(Street Children) の救出

不幸にも親に捨てられ、行く所がなく路上にいる子供たちの人数が増えていて、『小さな犯罪』を起こしながら生活する他はない子供たちがその対象です。衣食住や教育、医療などを与えて、彼らの救出に努める活動です。ここで世話を受けているのは約百名です。

3. 最も貧しい家族への衛生的なケア

この地区は衛生面に問題があり、貧しい人々は町にある唯一の病院に行けず、薬を手に入れることもできないので、緊急の場合のために支える制度が作られ、エイズ対策やマラリアなどの伝染病の予防注射を行うシステムを始めたばかりです。現在では、対象になつてているのは約二五〇の家族です。

## ウルグアイ・Uruguay

南米の小さな国であるウルグアイから昨年、おもしろい願いがありました。困っている子供たちのために日本の協力と援助を頂いて作られた子供たちのためのセンターに、サレジオ会員の神父

話できる知恵や環境の整備、病気に対応する予防指導など、通常の生活に必要な基本的なことを教える活動に使いたいのです。ここで世話を受けているのは現在約五十名です。

最初のサレジオ会員司祭、秋元神父様を選び、その名前を伝えたところ、その建物は「秋元神父セントター」と名付けられました。

九五歳の秋元神父様にとつては思いもしないことで、「自分はふさわしくない、他の方に対するよう」に言い続けられましたが、彼のこの願いを私は聞き入れませんでした。もちろん今でも後悔していませんし、良かつたと思います。彼の長い人生の冠のように思えるからです。私たちが誇りに思っている神父様です。そのセンターが学校ではないにも拘らず、長い目で見た将来を考え、子供たちに勉強の指導を本格的に行ない、毎日一食を与え、いろいろと工夫された行事企画を通して、ウルグアイ共和国の文化を体験させながら、次の時代の良き市民作り、良き人間形成に励むボランティアの方々で運営されています。



先日、南米を訪れた時彼らに会いに行ってきました。突然だつたにも拘らず、すぐ《出来上がった》歓迎会を行なつて

くれて、自分たちの国のいろんな踊りや歌で喜ばせてくれたばかりか、日本人を含む多くの人々への感謝の意を立派に感じさせてくれました。

### ソロモン諸島・Solomon Islands

個人的に四年ばかり関わってきたソロモン諸島に対してはいろいろな島の習慣や使っていいる言語の面白みが最初から目立っています。そしてそれは実に大変なことです。しかしながら、深く関わっていくにつれて、ジャングルでの村の生活スタイル、大自然が与えてくれる食べ物と魚で養われる現状、何キロも歩いて移動する大変さ、衛生上の問題点、安全に走れる道や交通機関の少なさ、学習環境の困難さなどにも気が付いてきました。

外から見て、一時的な関わりだけならば、ソロモン諸島は「パラダイス」に見えるのですが、住民の寿命がそんなに長くなく、多くの基本的なニーズが満たされない現実の前では、やはりより徹底的な支援を考えざるをえません。

そのように感じたのは現地のサレジオ会員からでした。彼らは宗教活動に励みながらも、長期的な視点から、若者に職業を持たせる工業学校 (Technical School) (大工・メカニクス・溶接・洋裁など) と、実際に地元に戻れば必ず作物が保証される手法を伝授するための農業訓練校 (Rural Training Center) (田植え・野

菜・鶏や家畜を飼うなど) も若者と共に作っています。彼らは新しい時代のために、ソロモンの若者と共に尽くしています。

そのような訓練校に必要な材料や機械をソロモン諸島では見つけることができないので、お金のかかる外国から買わないといけないです。そしてそれは実に大変なことです。しかしその大変さの中で、ソロモンの子供たちや大人の人々の顔に美しさをもたらす微笑が、すべての苦しみの上にある神様からの祝福にわたしには見えるのです。その微笑は近づく人に与えられる「大きな恵み」なのです。

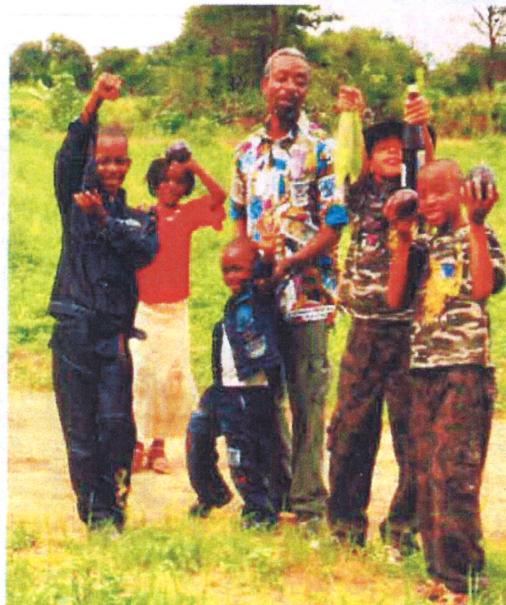
### コンゴ民主共和国 Democratic Republic of Congo

長い内戦で苦しんだ国で、アフリカのことに関して少しでも関心がある方々にはお分かりでしょうが、弱い立場にいる子供や女性がどれほど人権の面で無視されたことか！ 利用され、乱用され、使い捨てとされた女性の人数はあまりにも多過ぎます。

この国ではアフリカ生まれの修道者や多くの善意の人々は、まず徹底した人間性回復への活動を行なっています。私はコンゴの管区長と直接に会って現状報告や資料を頂いています

能性があるので、支援を強く望んでいます。

建物を建てるなどの大きな援助はできませんが、この国において、本を手に入れるのは大変困難になつてるので、そのための協力を約束してきました。毎年、最低100万円を送り、本を揃えていける対策に協力ををしていきたいからです。生徒ばかりか、先生方にも本がなく、教えたいこと全てを自分の言葉と黒板に書ける範囲でしか、伝えられないその現状はあまりにも痛ましいのです。本を揃えていけるようにならぬ間は継続ある支援を行いましょう。



交通機関に恵まれず、学校に行くのも彼らにとっては大きな挑戦です。向上心を持つコンゴの若者たちにとって、学校に行くのは将来に欠けていく若い世代の教育にすぐく尽くせる可



いつも若者たちとともにいるドン・ボスコ

かせない手段だとよく理解しているようです。このような彼らの夢とニーズに応えていくのもDBKの一つの目標です。物を与えるのではなく、自分で考えて、判断し、実践できる人間を育てながら、将来に希望を持たせるのはドン・ボスコの大変な教育方法でもありました。

一人でも多くの困っている人が、自分たちの助かりをとおして、周りの人々を助けることができるように願いながら、援助を続けていきたいと思います。

かせない手段だとよく理解しているようです。

このように彼らの夢とニーズに応えていくのもDBKの一つの目標です。

### ドン・ボスコチャリティーバザーを終えて思うこと

山田 博子

十二月五日、京王プラザに於いて第二十四回「ドン・ボスコチャリティーバザー」が開催されました。今日までバザーに関わってくださった沢山の方々のお力に支えられて今年十二年目を迎えることになりました。手芸品を作る方、和菓子やケーキを作る方、寄贈品をくださる方、毎回会場で買い物をしてくださる方など、いろいろなところでご協力くださった方々に心から感謝しております。

一年間の収益金は、年末に『発展途上国援助・ドンボスコ基金』を通して、援助を必要としている子どもたちのところへクリスマスプレゼントとして届けられています。

平成十九年に『発展途上国援助・ドンボスコ基金』が設立され、私は事務局のお手伝いをさせていただきましたことになりました。この会は寄附をしてくださる方と援助を受ける人々のパイプ役をすることが目的の一つになっています。

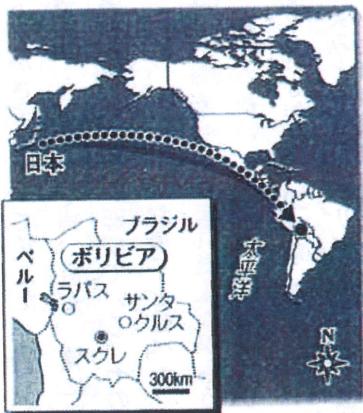
関わってみて世界中で戦争、貧困による飢餓、病気などによって苦しんでいる、特に弱い立場の



女性や子どもたちのなんと多いことを知りました。アフリカを例にとつてみますと、極度の貧困不足、十五歳から二十四歳の若者の二六・三%が字を読めない、一〇〇〇人中一七九人の子どもが五歳未満で亡くなる、一人の女性が出産する子どもの数は五・五人、二〇〇〇年には二十四万人の女性が出産時に亡くなっている、十五歳から四十歳に感染し、毎年二〇〇万人のアフリカの人々がエイズで亡くなっています(UNAIDS/WHO二〇〇六年報告より)。このようなことが現実に起こっているのです。

ひと月前、長女が第二子を出産しました。孫を抱きながら、この子と世界中の子どもたちが生きる次世代が平和でありますようにと祈らずにはいられません。私たちの活動は微々たるものですが、その収益金が発展途上の国々で少しでもお役に立ててもらえるのでしたら私たちも幸せに思います。見えないところでいつも応援してくださっている皆様、これからもどうぞよろしくお願ひ致します。

## 倉橋神父奮闘記



### 人間むしばむ貧困に挑む

朝六時の呼び出し電話で日曜日は始まった。天国に行くガン患者を慰め、教会に駆けつけたのは八時半。さらに信者の家、学校などで四つのミサをこなし、帰宅したのは夜の十時すぎだった。

この日、西部ラバスでは、十万人が国会を囲み、貧困層に有利な新憲法案の国民投票を迫つてい

た。先住民で初の元首となつたモラレス大統領を支持する群衆だ。富裕層が支える野党も、数の力に屈し来年一月の投票に同意するしかなかつた。この国には天国と地獄がある。二十九年住み、日本からの義援金で貧しい人々を助けてきた倉橋は感じる。おおらかで温かい人間関係は神の恵みだが、貧困と麻薬が人々を苦しめる。スペイン植民地時代からくすぶる格差への怒りが、爆発しようとしているのだ。

翌日、倉橋はサンタクルス郊外のパルマソーラ

刑務所にいた。十二年前ミサに訪れ、雨にぬれ地べたに寝る母子を見た。獄舎が足りないと聞き驚いた。日本の支援者の助けで百人を収容できる建物を造つた。そこでまた、新しい命が誕生した。生後八週間の男子を抱くジャネットは、わずか百ドルの報酬で麻薬を運び空港で逮捕された。「仕事も家も失い、仕方がなかつた」と言う。女性受刑者の八割は素人の麻薬運び屋だ。「暮らしに困り、安いカネで使われる。神は厳しくは裁かないでしょう」。倉橋が乳母車の寄贈を約束すると、他の受刑者たちの顔も輝いた。刑務官も一緒に写真におさまつた。「貧しくても笑みがある。規律はないが包容力がある。そりや腐放と犯罪の国ですよ。でも、私は日本に帰ると冷蔵庫に入ったように感じる。年に三万人も自殺する日本が、ここより豊かと言えるかどうか…」

### 見えない地獄

サンタクルスに「プラン3000」という地区がある。洪水で三千の貧困世帯を移したのが始まりだが、仕事を求め山岳地帯からも流入、住民は数倍に膨れ上がつた。



写真中央が倉橋神父

(写真の人物は記事と関係ありません)

れ、わが子を虐待する親がこの地区では後を絶たない。父の性的暴力で失語症になつた女の子もいた。ビセンテは保育園で、愛情に飢えた子どもたちを次から次へ抱き締める。「親に愛されない子には深い心の傷が残る。子どもたちの苦しみで押しつぶされそうだ」倉橋は、ビセンテがここに来た十四年前からの協力者だ。園児が食べる米を届け続ける。「ビセンテさんは太陽、私は小さなマツチ」「私が車で倉橋さんはガソリン」。二人は出口のないぬかるみを一緒に歩いてきた。道行く人々の穏やかな表情に、ビセンテの語る地獄は見えない。だが、と倉橋は言う。「アフリカのように子供が目の前で餓死する貧しさではなく、一緒に暮らして初めて見える深い貧しさがある」。生きながら人間を破壊する貧困が、一見平穏なこの地区をむしばんでいるのだ。

## 母の最期の言葉

太平洋戦争末期の一九四五年五月二十九日。倉橋の家は横浜大空襲で焼けた。箱根の児童疎開先に母から「テルちゃん。死ぬなら一緒に方がいい。迎えにいきます」と手紙が来た。母は本当にやつてきた。父は既に戦死していた。終戦後、過労に倒れた母の最期の言葉が、聖職者への道を照らし出していた。「テルちゃん。良い人になりなさい」。ボリビアの日系移民が日本語のできる神父を求めた時、ローマ留学を終えた倉橋の運命が決まった。その頃の彼を知っているA子さんは、トラックの荷台に学生をいっぱい乗せて送り迎えしていた倉橋を覚えていて、「神父は話が面白くて、すぐに人気者になつた。ブラスバンドをつくつたり、教会で合宿をしたり。思い出をたくさんくれた」と証言している。倉橋は音楽好きだ。教会の結婚式では、ベートーベンの「喜びの歌」をハモニカで演奏する。誕生日に母からもらった時、独学で上下さかさまに持つて覚えた。今もドレミを左からでなく右から吹く時、母が一緒にいる。教会から隣の露店に電線が延びている。その先にあかりがともり、母と子がお菓子を並べた。夜の結婚式が終わり、幸せに包まれた人々がもうすぐ出てくる。倉橋の長い一日が終わろうとしている。

(山形新聞2008年11月22日号「日本遠望」45  
ほほ笑みと苦しみ・ボリビア より抜粋)



ペルーの場所をご存知でしょうか??  
神様の慈しみと皆様のご厚意に支え  
られて私たちは子供たちと共に喜び  
を分け合っています。

## ペルーで尽くしている宮崎カリタス会のシスターからの手紙

1982年4名の姉妹達によってペルーの地に蒔かれたカリタスの小さな種は神様の祝福と、たくさんの善意の人々の協力を得ながら成長し続けています。現在5つの現場にいますが、その中のパンプローナ・アルタとマンチャイはリマ郊外のスラム街にあります。そこでは貧しい人々や病人の家庭訪問と支援、教会付属の保育園、小学校にも尽くしています。

スラム街は地方でのテロリスト活動が非常に活発だった1970年代に、そこに住んでいた人々が集団でリマに移動し、リマ周辺の砂漠地帯に不法侵入して住み着いて出来たところです。現在でもスラム街での治安は悪く、麻薬、アルコール依存、暴力、ドロボー等の悪事が頻繁におこっています。

住民の大半が女性は金持ちの家の掃除、洗濯、路上での物売り、男性は建築現場での日雇い等でその日暮らしです。私は貧しい人々を支援する為、長時間保育を提供し、カリキュラムにそった保育活動、朝食、昼食を準備して子供達の健康と全人教育、家庭の改善をめざしています。貧しい人々が対象ですので僅かでいいから「月謝」をお願いしていますが、あくまでも子供たちの保育と食料に必要なお金が全然入らなく、非常に困難です。特にパンプローナ・アルタの「マリアタキ保育園」は大変です。

そのような中で「ドンボスコ基金」から50万円のご支援が頂けたとの吉報が入り、夢のような思いで神様に心からの感謝の祈りを捧げました。会員の皆様方の暖かいご理解とご協力にお礼申し上げます。世界の経済政策は富んでいる人々は益々豊かに、貧しい人々は社会から疎外され極貧へと追いやられています。麻薬におかされ、飲酒を繰り返し、争いが絶えず、悲痛な叫びが身近に聞こえるこの地域で、私達は小さな、しかし、光り輝く灯火をともし続けようとしています。私達が苦しむ人々の痛みに共感し、愛を証できるのは多くの人々のあつい祈りと犠牲と協力に支えられているからです。「ドンボスコ基金」の会員の皆様方にリマより心からの感謝と、神様の豊かな祝福をお一人お一人のうえに祈りながら…。

地区長 シスター・テレジア・川端キヌ卫

## もうすぐクリスマスですね

河 合 恒 男

こんな伝説をお聞きになったことがあるでしょうか。

「その夜、大きな星を頼りに旅に出たのですが、途中で、三人の占星術の博士たちは、導きの星を見失ったのです。二人は杖で地面に何かを描き始め、計算をしながら、何度も首を傾げていました。でも、いっこうに星は見当たりませんでした。星の導きを熱望していた二人の博士たちは夜の沈黙の中で、泣き出しました。くやしさと寂しさで胸がいっぱいにならましたからでしょう。せっかく遠い国からやってきたのですから・・・。」

ところが、もう一人の博士は、二人から離れたところで、こう考えたのです。「自分たち以外のものも、のどが渴いています。動物たちにも水をやろう」そこで、そばにあった桶の取っ手を持ち上げ、ラクダたちに水を飲ませようとしたのです。そのとき、彼は自分たちが見失っていた導きの星を見たのです。桶の水面に移った導きの金の星が静かに、そして優雅に踊っているのを見たのです。

この伝説を読んで皆さんはどう思いますか。いつも思うのですが、わたしにはクリスマスというお祝い日はそんなに手放して「おめでとう」といえる日ではないのです。

考えてみると、2000年前のユダヤ人たちの社会はローマの厳しい支配に虐げられ、政治的、宗教的圧迫に苦しみにあえぐ人々は一生懸命にお祈りをしたり、犠牲を払ったりしながら、救い主の到来を待っていたのです。社会的に恵まれた人々、宗教的な特権階級の人々、まじめなおじさんやおばさんたち、心の美しい少年や少女たち・・・みんな好い人だったと思います。でも彼らは残念ながら、イエスさまに会えなかったのです。どうしてでしょうか。

彼らはみんな、自分なりのイメージにとらわれていたからです。私たちが馬小屋の前に、自分の身を置くとき、神様からの照らしを必要とするのです。肌の色の違いや、貧富の差を問わず、そこにいる一人ひとりが貴重な宝物であり、私たちの愛の対象であることをわきまえるために。神さまが人となられた事実を受け入れるために。

もう一度、私たちも自分の心と目を開かなければ、顔を向けなおさなければ、救い主のイエスさまと出会えないかもしれません。

わたしは裸で生まれた、とイエスは言われる

あなたが自分自身を脱ぎ捨てることができるよう

わたしは貧しい者として生まれた、とイエスは言われる

あなたが貧しい人々を助けられるよう

わたしは弱い者として生まれた、とイエスは言われる

あなたが決してわたしを畏れないよう

わたしは愛するために生まれた、とイエスは言われる

あなたが決してわたしの愛を疑わないよう

わたしは個性を有するひとりの人間として生まれた、とイエスは言われる

あなたがあなた自身であることを決して恥じないように

わたしは虐げられる者として生まれた、とイエスは言われる

あなたがさまざまな困難を受け入れられるよう

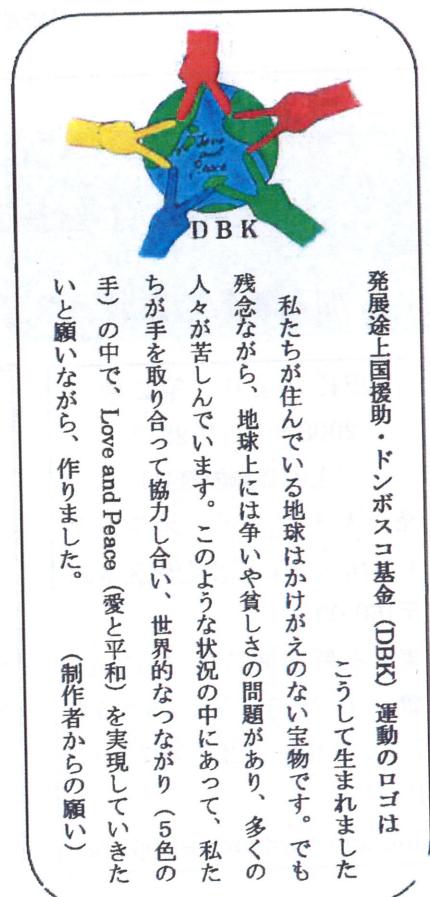
わたしは単純素朴な者として生まれた、とイエスは言われる

あなたが虚栄心を捨てて、純朴になるよう

わたしはあなたのいのちの中に生まれた、とイエスは言われる

すべての人を、父なる神の家に連れて行くために

(ランベルト・ノートンの祈り)





## 主の御誕生

おめでとうございます

みなさまの あたたかい善意の上に  
神さまの恵みが豊かにありますように

—— これらの私の兄弟、しかも最も小さい者の  
ひとりにしたのは、私にしたのである  
(マタイ25・40)

2008.12.25

代表者 プッポ・オランド

### 援助してくださる方々に対してミサでの感謝

サレジオ会の伝統では毎月の最終日は創立者ドン・ボスコの記念ミサが、24日には扶助者聖母マリアの記念ミサが捧げられています。

私たちも皆さまのご厚意に応えるべく、次のような意向でミサをささげています。

24日 この運動に協力して、もうすでに天国に召された方々のため

最終日 ご支援いただいているすべての皆様のため



ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号 00100-4-560725

加入者名 発展途上国援助・ドンボスコ基金



DBK だより 第2号

2008年12月25日

(主の降誕の祭日)

発行人： プッポ・オランド

発行所： サレジオ会管区本部

〒160-0011

東京都新宿区若葉 1-22-12

☎ : 03-3353-8355

Fax : 03-3353-7190

Eメール

dbk\_sdb-gia@donboscojp.org

### 編集後記

★クリスマスおめでとうございます。世界中の人々に大きな喜びをもたらされる主キリストのうちに、皆様の善意がより大きなものとして活かされることを願っていると共に、いつも寛大な援助を惜しみなくしてくださる皆様に深く感謝しています。

★実はクリスマスカードを別にきちんとした形で差し上げよう計画していたところ、カード代金を考慮すると、一ヶ国の援助金にも相当するのではないかという提案があり、今回はこの「DBKだより」の中に刷り込む形で、皆様へのご挨拶にかえさせていただきました。ご了承ください。来たる年が皆様にとって、恵み多いものとなりますように。編集責任者：河合恒男（管区財務）